

やってみなはれ

夫 明美

「1 月往ぬる、2 月逃げる、3 月去る」といいますが、2019 年が始まってあっという間です。

大学では学年末の試験と入試シーズンが本格化して、緊張感が高まる時期です。中学校、高校で受験学年や進路指導を担当される先生方も、普段以上に細やかな対応に工夫される時期かと思います。学生の皆さんも、一生懸命に努力しながら、未来への期待や不安が入り混じる時間を過ごしているでしょう。今回は、教育業界以外のお仕事をされている友人との会話から、「やってみなはれ」精神が持つ重みについてお話したいと思います。

小学校 6 年生のお子さんをもつ友人がおり、それぞれに近況報告をするなかで、お子さんの中学校受験についての選択・結果についてお話がありました。お子さんは中学受験をしない選択をされ、親御さんから見ると、「(プレッシャーにならないように、言葉にはしないが) 親からの期待」に悩んでいる様子だったそうです。その姿をご覧になって、「これからどんな選択しても応援するし、何でも相談にのる」と伝えて、見守る姿勢を維持されたそうです。親御さん自身は受験を経験されていたので、早い段階から挑戦して、進路を固めることの利点も実感されています。そんななかで、ご自分の意見・経験を押し付けないことは、私から見ると非常に難しいことのように思いました。職業柄、「こうした方がよい」とか「こうすると伸びるよ」と言うことが多いからです。時には押し付けがましく「ここがダメ」とか「こうしないとダメ」と「上から目線」のアドバイス(?) をすることもあからずからです。

そんな私でも、一教員として働き始めてから、先輩・先生方にいただいた言葉で一番心強かったのは、「あんたの思うようにしなさい。責任は一緒にとったるから」でした。その言葉の根底に信頼を感じて、強い安心感を持ちました。至らない私でも一生懸命考えて行動することを見てくださいる方がいる、と思ったからでしょう。10 年近く前のことですが、今でも時々思い出し、自分を鼓舞します。

上記 2 つのエピソードから思うのは、友人はお子さんに、某先生は私に「やってみなはれ」精神の種を植えたということです。12 歳、15 歳、18 歳の受験生、それ以上の年齢の大学生の進路は経験値が異なります。しかし、勇気をもって挑戦することの大切さ、結果を受け止める素直さ、周りからの応援のありがたさ、は共通しているな、と感じた 2 月です。

(夫明美 准教授/教員養成センター)